

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

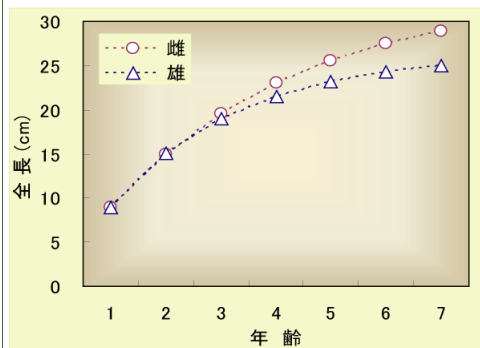
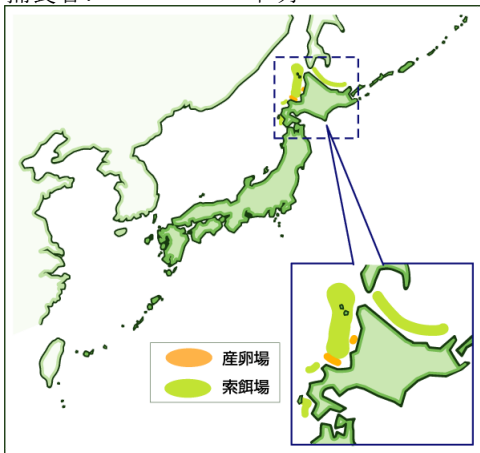
系群名 北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳以上
成熟開始年齢: 雄2歳(50%以上)、雌3歳(50%以上)
産卵期・産卵場: 5～9月(中心は7月)、主に奥平沖(水深60～80m)と増毛～留萌沖(水深60m)
索餌期・索餌場: 北海道の日本海側～オホーツク海側の陸棚域と水深300m以浅の陸棚斜面
食性: 成魚はイカナゴ、タラ類幼魚、その他の小型魚類、オキアミ類、クモヒトデ類、多毛類、イカ類、エビ類、二枚貝類
捕食者: 不明

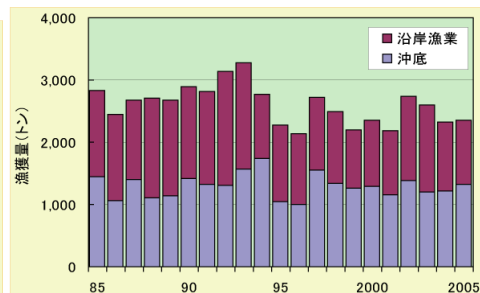
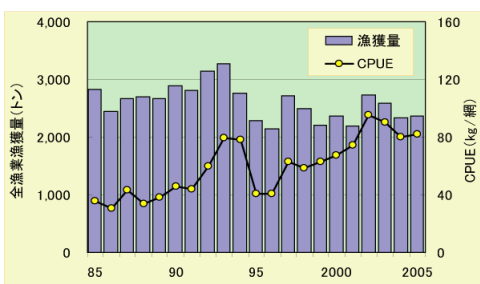


漁業の特徴

ソウハチ北海道北部系群は、日本海では主として沖合底びき網漁業(沖底)と刺網漁業によって漁獲されている。沖底は主に9～4月に索餌群を、刺網漁業は主に4～7月に産卵群を漁獲している。オホーツク海でも、主として沖底と刺網漁業によって漁獲されているが、日本海に比べその漁獲量は少ない。沖底の主漁期は9～10月で、刺網漁業の主漁期は6～8月である。

漁獲の動向

沖底の漁獲量は、1982年以降概ね1,000トン台で推移しており、2005年の漁獲量は1,321トンであった。また、沿岸漁業の漁獲量も、1985年以降概ね1,000トン台で推移しており、2005年の漁獲量は1,040トンであった。このため、沖底と沿岸漁業を合わせた漁獲量も、1985年以降概ね2,000トン台で安定して推移しており、2005年の漁獲量は2,361トンであった。



資源評価法

1993年と1994年および近年における沖底のCPUEの増加は、ソウハチが主に分布する海域での操業の増加によるものと考えられている。したがって、これらの年におけるCPUEの変化は、資源量の変化を必ずしも反映するものではないと推察されるため、漁獲量を基に資源評価を行った。

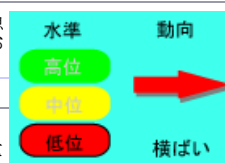
資源状態

2005年の漁獲量は、過去21年間に於いて7番目に低い値であった。また、過去5年間の漁獲量に於いては回帰直線の傾きは、0と有意に異ならなかった。したがって、資源水準および動向は、それぞれ低位で横ばいと判断した。

管理方策

資源水準が低位のため、現在よりも漁獲量を減らす必要がある。一方、漁獲量の変動パターンから、資源量は1985年以降安定して推移していると考えられる。ここで、この資源量が安定していることは、それらを高中低位の3段階に分類しても、各段階間における差はそれほど大きくないことを意味している。よって、現在の資源水準は低位であるが、それを高位へ回復させる目的で、漁獲量を大幅に減らす必要性はないと推察される。したがって、現在よりも漁獲量を若干減らすことを目標に、ABClimitは過去5年間の平均漁獲量に0.9を乗じて算出し、ABCtargetはさらに0.8を乗じた漁獲量とした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,200トン	0.9Cave5-yr	-	-



ABCtarget	1,800トン	0.8・0.9Cave5-yr	-	-
-----------	---------	-----------------	---	---

資源評価のまとめ

- ・ 漁獲量を基に資源状態を判断
- ・ 漁獲量は1985年以降安定して推移
- ・ 資源の水準は低位、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- ・ 漁獲量の変動パターンから、資源量は1985年以降安定して推移していると判断
- ・ 資源水準は低位であるが、それを高位へ回復させる目的で、漁獲量を大幅に減らす必要性はないと推察
- ・ 現在よりも漁獲量を若干減らすことを目標とする

資源評価は毎年更新されます。